

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

# 自己評価報告書

令和6年3月30日現在

早稲田美容専門学校

令和6年3月30日作成

# 1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>本校の教育理念は「礼儀・責任・融和」 時代が変わっても決して変わることはない、言わば「心の技」（正しい意識）を理解し、常にこれを磨いていこうとする人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・礼儀 人と人との社会生活を全うするために行う、人として行うべき作法</li><li>・責任 自分が関わった事柄を最後までやり遂げようとする強い気持ち</li><li>・融和 周囲の人と打ち解けて仲良くすること</li></ul>	<p>教育目標は「挨拶・清掃・工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・挨拶 コミュニケーション能力と人間性の育成</li><li>・清掃 気づく心の養成</li><li>・工夫 多様なニーズに応える技術・知識・センスの習得</li></ul> <p>現場に直結した実習内容や、専任教員による実習授業、各種資格の取得など即戦力となる人材の育成を行っている。</p> <p>また、人間力を磨く教育として様々なジャンルの方による各種セミナー、海外研修や留学などで海外の文化に触れ、歴史や文化を学び視野を広げ豊かな感性を養える教育を目標としている。</p> <p>（コロナ禍の中、令和2年度・令和3年度の海外渡航は中止となっている）</p>

## 2 本年度の重点目標と達成計画

令和5年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>本校の教育目標の達成を実践するべく、教員の人間力・技術力・授業力などを把握、ブラッシュアップして業界に求められる人材を教育、育成する。また、より良い教育環境をつくり、多くの学生が自己の目標を達成出来るよう学級運営を充実させ、在校生全員の満足度の向上を目指す。</p> <p>学生が安心して学べる学級環境をつくり、人間関係等のトラブルによる退学者が出ないようにする。</p> <p>また職員間の『報告・連絡・相談』を意識的に、より確実に行えるよう強化する。</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 技術の勉強会や、授業研究などを用い向上を図る</li><li>2 授業評価制度や専門技術の確認システムを有効に推進する</li><li>3 最新の業界に関する情報を教職員で共有し学生へと伝える</li><li>4 HPに加え、インスタグラム等 SNS で活動内容を公開していく</li><li>5 ハイパーQU を導入し、学生一人一人の心理状態を把握する</li><li>6 良い人間関係を活性化させる構成的グループエンカウンターの活用法を教員研修で全ての教員が習得できるようにする。</li><li>7 昨年度より在校生全員を対象にピアヘルパーの資格取得を目指し、教員全員が資格を取得したが臨んだ結果が得られなかった。反省を活かし対策を講じる。</li><li>8 全教室に設置されているスマートVボードの特性を十分に活かし、よりわかり易く効果的な授業を運営していく。</li><li>9 若手教員が確認しやすい環境づくりが大切になるので、先輩教員たちは積極的にコミュニケーションをとっていかなければならない。</li></ol>

### 3 評価項目別取組状況

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の理念・目的・育成人材像については、わかりやすく、具体的に示しており、学生・教職員にもよく周知徹底されている。学外への公表は、主に学校案内パンフレット・ホームページで行っているが、大変好評であり、今後もコンテンツの充実を図っていく。</p> <p>『礼儀・責任・融和』を身につけられる環境づくりを続けていく。</p>	<p>業界が求める人材像、時代に合った人材像をキャッチし、カリキュラムの見直し、実現性を的確に行っていく。</p> <p>また、必要に応じて教員の技術は勿論、業界の現状の知識のレベルアップを計っていく。</p> <p>教職員が『礼儀・責任・融和』を念頭に学校生活をサポートする。</p>	<p>業界が求める人材、時代にあった人材を育成する為に教員が現場の状況を直接感じることができるよう卒業生やその他業界人とのコミュニケーションを積極的に行っている。</p> <p>学生の自主性を尊重している。企画書などを提出してへアショーやクラブ活動、イベント等を立案してくる学生に対し積極的に支援している。</p> <p>『礼儀』をもって接し、目標達成の意志がある学生には『融和』の大切さを伝えるべくテーマを与え『責任』をもってやりとげられるように指導している。</p>

## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の目的は基準 1 で示したとおり明確に定められ、学校運営方針も校長を長とする課長級以上の教職員で構成する幹部会で策定されている。意思疎通を図るため毎朝会合を行っている。決定事項については議事録などの文書と口頭による伝達により行っている。</p> <p>事業計画のうち、財務に関しては策定されている。</p> <p>運営組織図は明確に定められている。意思決定機能は、幹部会が掌握しており効率的に意思決定がなされている。</p> <p>人事や賃金での処遇に関する制度は整備され、職員のやる気や能力を適切に評価する体制ができています。評価シートや評価結果の一覧表などのフォーマットは完成している。</p> <p>教務に関する業務効率化を図る情報システム化は整備されている。また、教職員の業務効率化のため、ほぼ 1 人 1 台のパソコンが配置されている。</p> <p>学生募集に関するデータは管理されており、業務効率化は改善されてきている。</p> <p>学校の情報提供については、ホームページや SNS を通じて充実させてきている。教育理念や法人概要、シラバス等はホームページでも掲載している。</p> <p>WiFi 等のネット環境を構築し、学生向けに電子ボード（スマート V ボード）設置し有効な IT ツールを活用した授業を展開している。</p>	<p>学校現場における現代の IT 化に対応した学校運営が可能となるよう、校内システム等インフラ整備を進めていく。</p> <p>校内業務の IT 化も、職員の労務管理や費用の支払い等、より効率的な業務運用が可能となるよう導入を進めていく。</p> <p>校内の建築物や設備においては、設立から 25 年が経過しており、老朽化した設備や構築物は順次入れ替えや修復に力を注ぎ、安全で清潔な教育環境の維持を行っている。</p> <p>教職員をはじめとして、スキルアップやキャリアアップを目的とした研修を取り入れている。校内における研修制度やスキルアップのプログラムを教育システムとして確立していくことが期待される。</p>	<p>残業管理や給与体系の合理化をはかり、すべての教職員が公平に評価される制度が確立されている。</p> <p>幹部会議や教職員会議など、情報の伝達は一斉に伝わるように配慮されている。</p> <p>また、幹部会議において決定した重要事項及び緊急事項についても、それぞれの部の長から所属職員に伝達することになっている。</p> <p>教職員の労務管理については制度改正に適切に対応している。</p> <p>著名な美容室やメイクアップサロンとの連携により教員への技術向上を目的とした研修を行っている。</p>

最終更新日付

令和 6 年 3 月 30 日

記載責任者

吉田 直倫

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>国家試験課題と現場に望まれる技術とのバランスを考えて、カリキュラムを作成している。</p> <p>人材確保ができていないことが、美容界の現状である。シャンプー、カラーなどアシスタント時の業務に役立つようなカリキュラム作りを行い1日も早く技術者として活躍できるよう考えている。</p> <p>国家試験課題は、特に学科の苦戦が予想されるため11月1日の課題発表後より毎日6限目は学科対策の授業を行い、実技試験課題の技術向上と並行して知識の積み上げを行う。</p> <p>非常勤講師との連携およびコミュニケーションを密にすることで、国家試験対策を強化していく。</p> <p>キャリア教育を行う上で業界の特色と時代背景を反映したものでなくてはならないため、技術者としてだけではなく、社会人としての教育も必要である</p>	<p>学生の学力・技術レベルに応じた授業を教務会議で検討する。</p> <p>外部講師からも意見を上げてもらい、積極的に授業に組み入れて行く。</p> <p>模擬試験の結果を踏まえてフォロー講習対象者を確定する。</p> <p>キャリア教育としての業界の話や社会人としての常識・マナーの教育も進めていく。</p> <p>学生の作品や学校生活の様子を発信しているインスタグラムのフォロワー数は21000人、TikTok57000人、TikTokサブアカウント4700人、YouTubeチャンネル登録者10000人と合計フォロワーは90000人を超えている。</p>	<p>特進クラスを設け、目標をもって授業が行えるようにしている。</p> <p>夏休み冬休みなどを利用して、サロン実習なども行い美容室での業務内容などを確認できるように工夫している。</p> <p>着つけ、メイク、エステ、ネイルなどトータル的に美容技術が習得できる。</p> <p>授業内だけでなく、イベント等の企画書も学生から受け付けており、企画書作成からイベントを開催するといった業界で求められる力をつける教育にも力を入れている。</p> <p>ベテラン教員の模擬授業を受けた後、若手が模擬授業を行い、更にフィードバックするといった工夫も行っている。</p> <p>スマートVボードを活用して、実技試験終了時の机上の状態をクラス全員で共有するようになったところ大幅に改善された。</p> <p>有名サロンLIPPSのヘアデザインフォトアワードにて25期の学生2名が優秀賞を受賞</p>

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年の資格取得者数を比較検討し、資格試験対策を行っている。試験に対する意識の低い学生に対しては放課後のフォローを実施している。</p> <p>実技対策に入ってからでも学科対策は並行して行う。</p> <p>目標達成と生徒指導の充実を図るため、毎日全職員で朝礼・終礼を行い、学生の状況を報告し合い、必要に応じて早めの情報収集と教育相談等にあたり必要な指導を行っている。</p> <p>学生から上がってくる様々なイベント企画を企画書の作成から指導して実行まで導いている。これにより企画運営力のある人材育成を目指す</p>	<p>指導方法と正答率との関連性を調査する。</p> <p>同窓会や各学科教員の協力体制を強化し、常に新しい情報収集することを心がける。</p> <p>近年増加傾向にある業務委託契約と雇用契約との違いなど、働き方に関する教育が課題。</p> <p>合格率 100%を達成してから 2 年連続で未達成となっている。今回実技試験は 100%だったが、学科で 4 名が不合格となり 98.2%という結果であった。この反省を活かし 100%を目標とする</p> <p>SNS を中心に卒業後の活動を注視していく。</p>	<p>フォトシューティングクラブ、ダンス部共に学生からの企画立案に応えた形で発足となった。他にも体験入学会でのヘアショーの開催等、企画立案する在校生が増えている。今後も学生の自主性を伸ばすためにも積極的に要望に応え援助していく。</p>

最終更新日付

令和 6 年 3 月 30 日

記載責任者

天久 博一



## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援に関する体制は整備されており、求人に関する最新情報の学生への伝達、説明会や面接の申し込み等の企業への連絡もスムーズに行われている。活動状況を就職課で把握している。</li> <li>・学生相談に関しては担任、学年主任、部長等で連携を取りながら行っている。今後は留学生にも相談しやすい環境づくりをしていく。</li> <li>・経済的な問題を抱える学生に対しては、奨学金の利用ができるよう取り計らっている。また希望者には分納にも応じている。</li> <li>・学生の健康管理は学校として年1回の健康診断を行っている。ふだんより病気予防のための指導をクラスで行っている。</li> <li>・地方からの入学者に対しては親身に住居の相談にのり、学生寮・アパート等の紹介を行っている。</li> <li>・出席状況に問題が生じた学生に関してはいち早く保護者への報告を行い、状況によっては、保護者との面談も行っている。</li> <li>・校友会の活動としては年に1回イベントの開催を行っている。(令和2年度については新型コロナウイルス感染症予防のため中止、令和3年度については規模、会場を縮小し開催、令和4年度は従来通り（一部規制あり）で開催、令和5年度からはほぼ従来通りの内容で開催）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容科に関しては、毎年在学数をはるかに上回る求人がきている。就職する意志があれば就職できる現況であるが、選択肢が多く逆に選択に迷いの生じる学生が多くなっている。決めかねている学生には、就職課や担任である程度選択をしぼり、紹介していく。</li> <li>・トータルビューティ科に関しては、令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響から対象の求人（特に化粧品会社）が大幅に減ったが、現在は戻りつつある。業界の状況を常に把握しながら、卒業後の中途採用での就職方法などをアドバイスしていく。</li> <li>・精神面に問題を抱えている学生が以前より増えている。保護者と連絡を取り合い情報の共有を心掛ける。</li> <li>・奨学金を生活費に使い込んでしまい、学費の滞納をする学生がいる。事前に奨学金の目的、借りる上での規則をしっかり理解させる。</li> <li>・引き続きインフルエンザ予防接種の呼びかけやうがい、手洗いの声かけを行っていく。</li> <li>・授業公開への出席を呼びかけ、授業や子供の学生生活を知ってもらうことで学校への信頼感を高める。 (令和2年度については新型コロナウイルス感染症予防のため中止、令和3年度についてはオンラインでの授業公開、就職説明会を実施、令和4年度以降は従来の授業公開、就職説明会を実施。</li> <li>・卒業生への連絡はライングループで行っているが、反応が薄く返信が来ないことが多い。個々に連絡が取れる学生がいる教員は個別に連絡をするようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活に対する学生の満足感や充実感を上げ、安心して学校生活を送れるよう新たに『hyper-QU』（アンケート）を実施し、学生一人ひとりの傾向や問題点などを各担任が把握している。</li> <li>・学校公式の SNS を学生にフォローさせて、災害時の伝達を配信している。</li> <li>・全学生の保護者にもポータルサイトに登録してもらい、緊急時以外の連絡事項なども一括で送信できるシステムを導入した</li> <li>・新たにピアヘルパーの授業を取り入れ、教員、学生全員が資格取得を目指している。</li> <li>・新たに YouTube 部を発足し、動画撮影、編集、登校などの活動を行っている。</li> </ul>

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>充実した施設・設備に恵まれ、授業カリキュラムの中でも、実習室を最大限に活かすことが出来る工夫をしており、教育内容もレベルアップした。</p> <p>全クラスにスマート V ボードを導入し、担任には iPad を配布。板書の時間や説明を事前に資料や説明動画を作成することによって合理的かつ能率的に授業の進行が出来た。</p> <p>サロン実習、海外研修旅行、ワセビ留学支援プログラム、国内研修等多くの研修を行える環境が整えられており、教育内容は充実している。</p> <p>毎年防災についての映像を消防から借りて、全校生徒で情報を共有している。</p> <p>クラスの代表者が直接消防署に赴き、消火器の扱いの実習訓練も行っている。</p> <p>全校生徒の本校からの距離を把握し、距離に応じた行動計画を策定した。教室には災害マニュアル、ヘルメット、メガホン、笛を常備。</p> <p>学生に対して災害時に使用できる防災対策用品セットを配布している。</p> <p>フロア責任者を配備して、学生下校後の教室の状況、破損、戸締りについてチェックを行っている。</p>	<p>授業を行う上で、更に良い教育環境を整備していく。</p> <p>スマート V ボードをより有効活用するためにアプリの研究や編集テクニックの経験を積んで、授業だけでなくホームルームの伝達や学年ごとの共有ツールとしても活用していく。</p> <p>SNS で学生が発表できるように学校のインスタグラムでメンションを促し活発に動かしている。</p> <p>行事などの場面でもスマート V ボードを活用し、地上デジタル放送による校内中継や、インターネットを使った ZOOM 中継など時代に則した活用方法を見出していく。</p>	<p>お茶室や着つけ室等日本の伝統文化を学ぶ事の出来る施設・設備を持っている美容学校は本校の特色である。</p> <p>ワセビ留学支援プログラムは、研修費の多くを学校で援助し、海外で様々な研修やセミナーが受けられる本校独自の特待制度である。</p> <p>新入職員に対して避難器具の説明や消火栓の取り扱い研修を毎年行っている。</p> <p>放課後や学校休業日にも教室を開放し、自主練習や作品撮りなどのサポートを行っている。</p> <p>サロン実習では、多くのサロン様に協力して頂き、サロンワークを学ぶことが出来る。就職試験に向けて重要な経験となっている。</p> <p>YouTube クラブやフォトシューティングクラブの動きが活発で、学生達の発表の場が豊富に用意されている。また、本格的な機材に触れ就職した後にも生きる経験を積むことができる。</p> <p>セミナー前には、事前学習として先生のプロフィールなどを編集した動画を教室で共有し、スマート V ボードで流す取り組みを継続している。</p>

## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>高等学校への情報提供は、進学相談会への参加、また高等学校教員には個別訪問を積極的に行っている。学生募集に関しては、適切に行っており、学校案内やパンフレット・ホームページには特色を分かり易く標記している。また、体験入学や入試説明会を月 2 回以上行っている。</p> <p>入学選考基準は、規定で明確に定めている。選考や合否判定は適切に行っている。入学選考の実績に関しては、インフォクラウドで管理し、学力に応じた指導を入学後行っている。</p> <p>学生の能力及び経済力を考慮した学納金を算定している。</p> <p>徴収金額はすべて明示している。</p> <p>入学辞退者に対し、授業料等の返還は学則・募集要項で明示している。</p>	<p>ホームページに Instagram、TikTok、YouTube などの導入を積極的に行っている。</p> <p>入学情報提供の Instagram を作成。フォローを密におこなう。</p> <p>体験入学予約時に希望する実習を選択するなど工夫をしている。</p> <p>入学選考において課題提出を選択制にするなど工夫している。</p> <p>志望者の状況を考慮し入学選考日を増やした。</p>	<p>高等教育の修学支援新制度の認定対象校としての登録を受けている。（令和 6 年度）</p>

最終更新日付

令和 6 年 3 月 30 日

記載責任者

間井谷 政利

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務基盤については、応募者数等の数字の把握は毎年行っており、収支のバランスはとれている。学校の中長期的な財務基盤は安定しており、事業活動収支超過額はプラスとなっている。しかし、積極的な設備投資を行った結果、学園全体の事業活動収支超過額についてはマイナスとなっている。</p> <p>法人運営に係る財務分析は行っており、教育研究費比率、人件費比率については、適切な数値になっている。資金収支やコスト管理については部門ごとに月次で適切に行っている。</p> <p>教育目標との整合を図って予算編成を策定している。編成過程及び決定過程は明確になっている。予算の執行計画を策定し、乖離しないよう適切に補正措置を行っている。</p> <p>予算執行にあたってのチェック体制は学園本部で行っており、適切な会計処理を行っている。</p> <p>監査は私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に実施し、理事会等で報告している。</p> <p>更に監査法人による監査を年2回実施している。</p> <p>財務情報においては、平成26年度より本校のホームページにおいて公開している。</p>	<p>学校単体では来年度もプラスで推移できるよう、学生募集等を計画どおり行う。</p>	<p>学校 HP の情報公開ページ・財務情報内において、法人の直近における「貸借対照表、収支計算書、財産目録、事業報告書」に関して公表を行っている。</p>

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令等を遵守し、適切に学校運営を行っている。また、必要な諸規定を整備している。</p> <p>個人情報保護に関する規程や、情報機器使用についての規定は整備している。</p> <p>個人情報をはじめとする機密情報については、セキュリティの強化や、職員への啓発および教育を引き続き行っていく。</p> <p>自己点検・自己評価は組織的に、毎年度行っており、毎年度、自己点検評価報告書を作成し、学校関係者評価委員会を行い、その結果をホームページで公表している。</p> <p>学校の概要、教育方針、教育内容、学校行事等については、平成26年度よりホームページにて公開している。その他の情報公開資料についても、同様にwebで公開している。</p> <p>学生の個人情報保護を目的とした対応を進めている。</p>	<p>マイナンバー制度の導入に対応して、社内における管理体制の強化や規定の作成等、更なる整備を進めていく。</p> <p>個人情報保護規定に基づく校内システムの構築を推進していく。</p> <p>情報の公開については、発信できる内容は、SNS等を活用して関係者へ有益な情報を発信していくとともに、一方で保護されるべき情報の管理についても、コンプライアンス体制を強化し対応していく。</p> <p>最近の社会環境を鑑み、就業規則の変更を行った。</p>	<p>本校美容科及びトータルビューティ科は平成26年度に職業実践専門課程の学科として文部科学大臣より認定されている。</p> <p>・ホームページ内、学校情報、教育活動にて情報を公開。</p> <p>令和6年3月 職員就業規則。</p>

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・開校当時から社会貢献やボランティア活動に対して意識が高く、新宿区で毎月行われている「ポイ捨てキャンペーン」には、当初から欠かさず参加している。</p> <p>・充実した施設・設備のチューデントサロンを通して地域の方にも積極的に開放することで、地域とのコミュニケーションも生まれ、社会貢献に繋がっている。</p> <p>・教職員の声ばかりでなく学生自身からも提案があり、「エコキャップ活動」も行っている。</p> <p>・東京消防庁より火災予防運動の感謝状を授与された。</p>	<p>・都立松沢病院からボランティア活動に対して、感謝状を頂き、今後も患者様の療養生活の質の向上に努めていくが、本年度はコロナウイルスの影響で実施できない状況である。</p> <p>・選挙権年齢が 18 歳以上となり、校内にポスターの掲示や「投票参加を応援するビギナーズガイド」を各クラスに置き投票参加の大切さを各クラスにて促している。</p> <p>・各種ポスター掲示により、社会貢献活動に参加を促している。</p>	<p>本校のボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本盲導犬協会募金</li> <li>・新宿区ポイ捨てキャンペーン</li> <li>・エコキャップ活動</li> </ul> <p>その他、校内ポスター掲示により、以下情報に関する告知を学生へ行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京消防庁 応急手当奨励制度ポスター</li> <li>・東京都福祉保健局 献血ポスター</li> <li>・東京都地域自殺対策強化補助事業ポスター</li> <li>・秋の全国交通安全運動ポスター掲示</li> <li>・厚生労働省 最低賃金保障制度ポスター掲示</li> <li>・東京消防庁 火災予防ポスター掲示</li> <li>・盲導犬募金ポスター掲示</li> <li>・結核予防週間ポスター掲示</li> <li>・厚生労働省 「働くこと」と「労働法」ポスター掲示</li> <li>・東京都若者総合相談センター若ナビαポスター掲示</li> <li>・国の教育ローンポスター掲示</li> <li>・若者悪質商法被害防止キャンペーンポスター掲示</li> <li>・「特定原付」電動キックボードの新しいルールポスター掲示</li> </ul>

## 4 令和5年度重点目標達成についての自己評価

令和5年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>本校の教育目標の達成を実践するべく、教員の人間力・技術力・授業力などを把握、ブラッシュアップして業界に求められる人材を教育、育成する。また、より良い教育環境をつくり、より多くの学生が自己の目標を達成出来るよう学級運営を充実させ、在校生全員の満足度の向上を目指す。</p> <p>学生が安心して学べる学級環境をつくり、人間関係等のトラブルによる退学者が出ないようにする。</p> <p>また職員間の『報告・連絡・相談』を意識的に、より確実に行えるよう強化する。</p>	<p>1 教員研修等により、クラスとの関係性の作り方等の研究を継続的に行っているが、教員の理解度や実行力の問題なのかクラスによる差が著しい。</p> <p>2 ハイパーQUにより、学生の個性を把握する努力を行っている。</p> <p>3 本校は、NPO 日本教育カウンセラー協会の中級カウンセラーの資格を有する常勤の職員がいる極めて珍しい専門学校であるが、更に校内環境を良好にするため、教員全員が教育カウンセリングの導入的学習にあたる『ピアヘルパー』の資格を学校全体で取得して、お互いがささえあえる環境を目指している。</p>	<p>1 個人差のある教員の経験年数に合わせたOJTを行なっていく。</p> <p>2 入学してすぐに友人関係を作れず孤立してしまう学生を減らす為、新入生オリエンテーションに構成的グループエンカウンターを取り入れ、コミュニケーションをとらなければならない状況を作ったが、その学級内のグループ構成に差があり半年が経過した現在も小グループに留まっている学級がある。教員研修のあり方、方法も見直して、教員の『意識』『知識』『対人技術』の向上を目指す。</p> <p>3 教育カウンセラーの知識と技術を発揮して、学生が安心して学べる学級運営を目指す</p> <p>4 新人教員が効率的に仕事を覚え、早い段階でやりがいを見出せる環境づくりを目指す。</p>